

## 紙つて

マントヴァは、イタリア北部ロンバルディア州にある町。ルネサンス期に領主ゴンザーガ家のもとで文化芸術が開いた。居城にはお抱え画家マンテーニャのフレスコ画が壁や天井一面を飾り、宮廷人の肖像群像を間近に見ることができる。

昨年の春、ボローニャ大学に留学中の教え子たちに、それらの絵を見せたくてマントヴァに誘った。

ドゥカレ宮に着くと既に長蛇の列。幸い、時間と人数を日本で予約済みだったので、専用窓口ですぐにチケットが受け取れた。

入り口で係員が首から下げたカードとチケットを照合し、ピッ、ピッ、と無機質な音が耳を突く。馬に

## 好武田の「ピッ」マントヴァの

乗ったまま城内に入るための螺旋状スロープがあつて、私たちは一歩ずつ上つてゆく。馬が駆け上がる様が想像されるが電子音が邪魔をする。

三十年ほど前は訪れる人もほとんどなく、係員から珍しがられた。居城が広いため案内係付きの見学となつたが、気の済むまで見させてくれた。城内は暗く冷たく、自分の足音が遠くまで響いた。

今回は、前室に集団で待たされ時間が来ると誘導される。採光がよくフレスコ画の色彩が目飛び込んでくる。ゴンザーガ家の人々の話し声が聞こえてくるかのようだ。

だが、次の瞬間、スマートフォンで彼らの声はかき消され、傍らで待機する馬や犬たちも動きを止めてしまった。

(静岡文化芸術大教授)

2020.5.2

2020.5.2

中日新聞(夕刊) P.1